

Sitecore CMS 6

ワークフロー クックブック

ワークフローをデザインする CMS 管理者のためのヒントとテクニック

目次

Chapter 1	イントロダクション	3
Chapter 2	ワークフローの作成方法	4
2.1	ワークフロー定義アイテムを作成する	5
2.2	ワークフロー状態を作成する	6
2.2.1	初期状態を設定する	7
2.3	ワークフロー状態にワークフロー コマンドを追加する	8
2.4	ワークフロー状態またはコマンドにワークフロー アクションを追加する	10
2.5	ワークフロー最終状態を定義する	12
2.6	ワークフローをテンプレートに割り当てる	13
Chapter 3	ワークフロー状態とワークフロー コマンドへのアクセスの制限	14
3.1	ワークフロー コマンドを特定のユーザーには非表示にする	15
3.2	ワークフロー状態を特定のユーザーには非表示にする	16

Chapter 1

イントロダクション

このクックブックではワークフローの作成と構成を行う CMS 編集者とシステム管理者のためのテクニックを解説します。

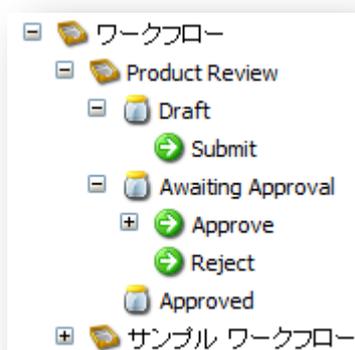
この文書には次の章があります。

- Chapter 1 - イントロダクション
- Chapter 2 - ワークフローの作成方法
- Chapter 3 - ワークフロー状態とワークフロー コマンドへのアクセスの制限

Chapter 2

ワークフローの作成方法

この章では次の状態とアクションとコマンドをもつワークフローを作成します。



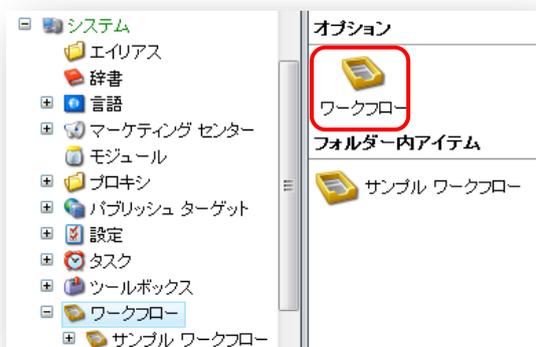
ワークフローの作成は次の手順で行います:

- ワークフロー定義アイテムを作成する。
- ワークフロー状態を作成する。
- ワークフロー状態にワークフロー アクションまたはワークフロー コマンドを追加する。
- ワークフロー最終状態を指定する。

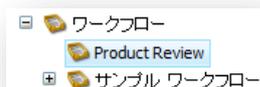
ワークフローを作成して使用するためには、そのワークフローをテンプレートに割り当てる必要があります。

2.1 ワークフロー定義アイテムを作成する

ワークフロー定義アイテムを作成するには、/sitecore/システム/ワークフローに移動し、ワークフロー テンプレートを使用してワークフロー定義アイテムを作成します。



新しいワークフローの名前を [Product Review] とします:

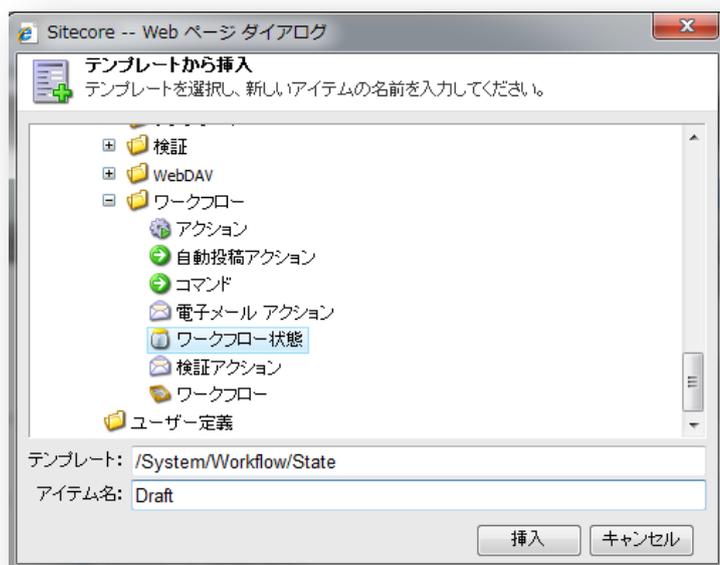


[ワークフローの初期状態] のフィールドは空白のままにします。

2.2 ワークフロー状態を作成する

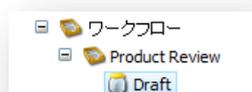
ワークフロー状態を作成する手順:

1. ワークフロー定義アイテムを選択します。
2. [テンプレートから挿入] コマンドを選択し、/システム/ワークフロー/ワークフロー状態 テンプレートを使用して新しいワークフロー状態を作成します。最初の状態の名前を Draft (下書き) とします:

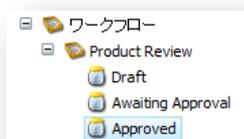


[挿入] をクリックします。

3. ワークフロー状態が作成されました:

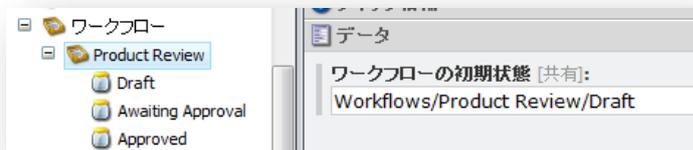


さらに2つのワークフロー状態、Awaiting Approval (承認待ち) と Approved (承認済み) を作成します。下記のようになります:



2.2.1 初期状態を設定する

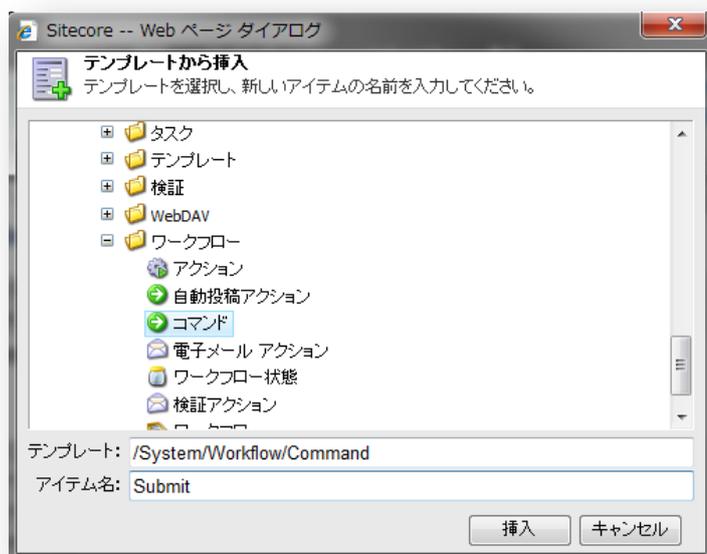
ワークフロー状態が作成できましたので、ワークフロー定義アイテム [Product Review] を選択し [ワークフローの初期状態] を Draft に設定します。



2.3 ワークフロー状態にワークフロー コマンドを追加する

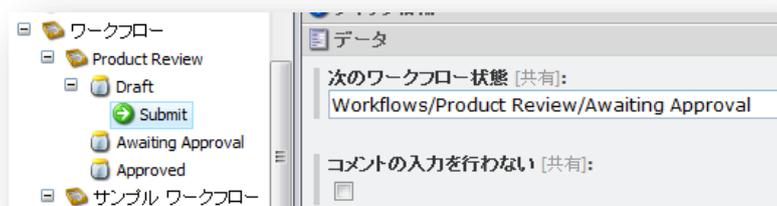
ワークフロー状態にコマンドを追加する手順:

1. ワークフロー状態 Draft を選択します。
2. [テンプレートから挿入] コマンドを選択し、/システム/ワークフロー/コマンド テンプレートを使用して新しいワークフロー コマンドを作成します。新しいコマンドの名前を [Submit] (投稿) とします。



[挿入] をクリックします。

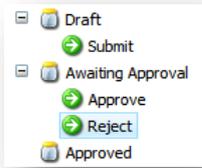
3. コマンドが作成されました。コマンドの [次のワークフロー状態] のフィールドには Awaiting Approval 状態を選択します。



さらに Awaiting Approval 状態の下に次のコマンドを作成します:

[Approve] (承認) コマンドを作成し、[次のワークフロー状態] を Approved とします。

[Reject] (却下) コマンドを作成し、[次のワークフロー状態] を Draft とします。

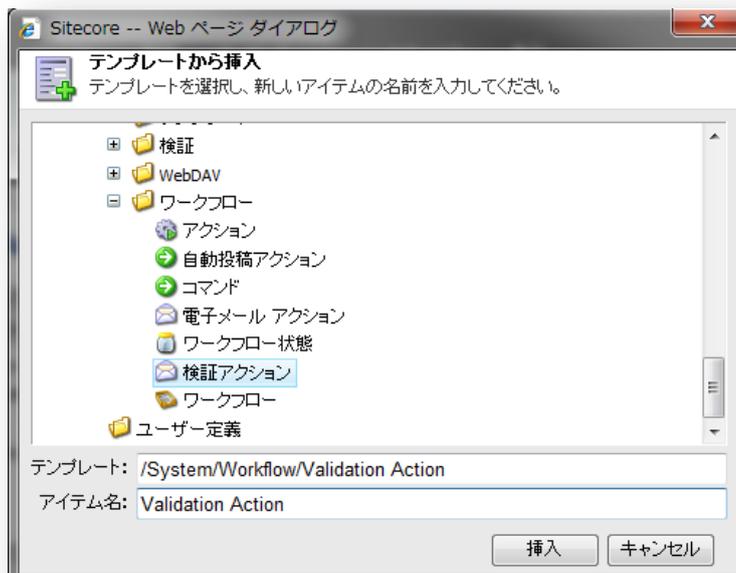


2.4 ワークフロー状態またはコマンドにワークフロー アクションを追加する

この例ではワークフロー コマンドに検証アクションを追加します。

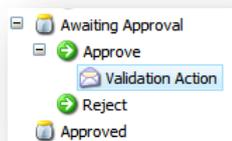
ワークフロー コマンドにワークフロー検証アクションを追加する手順:

1. ワークフロー コマンド [Approve] を選択します。
2. [テンプレートから挿入] コマンドを選択し、/システム/ワークフロー/検証アクション テンプレートを使用して新しいワークフロー アクションを作成します。新しいコマンドの名前を [Validation Action] (検証アクション) とします。



[挿入] をクリックします。

3. 検証アクションが追加されました:



ではフィールドを入力しましょう。

4. [種類] フィールドでは、次のように入力します:
`Sitecore.Workflows.Simple.ValidatorsAction, Sitecore.Kernel.`
5. [最大許容範囲] フィールドには `Warning` と入力します。
6. [エラー] フィールドには検証エラーが発生した場合にユーザーに表示するメッセージを入力します。たとえば [検証結果にエラーがあるため、このアイテムを承認することはできません] などです。検証の設定についての追加情報は、『クライアント構成クックブック』Chapter 3「データの検証」を参照してください。

同様の手順によって Approved 状態に [Auto Publish] (自動パブリッシュ) アクションを追加します。

2.5 ワークフロー最終状態を定義する

ワークフローの最終状態となるべき状態を選択し、データ フィールドの [最終状態] チェックボックスを選択します。



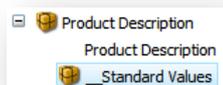
この例では Approved 状態にあるアイテムのみをパブリッシュすることができます (ただし、これはワークフローに従わないアイテムには当てはまりません)。

2.6 ワークフローをテンプレートに割り当てる

ワークフローが作成されたら、それをテンプレートに割り当てて使用可能にします。

ワークフローをテンプレートの標準値アイテムに割り当てるのがお勧めの方法です。

1. テンプレートを選択します。
2. __Standard Values アイテムを選択します。



3. [表示] タブの [表示] グループで [スタンダード フィールド] のチェックボックスを選択します。



4. [ワークフロー] セクションの [デフォルト ワークフロー] フィールドでワークフロー定義アイテムを選択します。



[ワークフロー] と [ワークフロー状態] は空白のままとします。これらはワークフロー設定にもとづいてアイテムが作成される際に自動的に入力されます。[ロック] フィールドはそのままにします。

5. テンプレートを保存します。これでワークフローに使用する準備ができました。

Chapter 3

ワークフロー状態とワークフロー コマンドへのアクセスの制限

この章ではワークフロー状態とコマンドへのアクセスを制限する方法について説明します。

3.1 ワークフロー コマンドを特定のユーザーには非表示にする

コンテンツ エディターとワークボックスは、システム管理者以外に対しては次の場合にワークフロー コマンドを表示します:

- そのユーザーが、関連付けられたアイテムへの書き込みアクセス権をもっている。
かつ
- そのユーザーが、コマンドの親のワークフロー状態への書き込みアクセス権をもっている。
かつ
- そのユーザーが、ワークフロー コマンド自体への読み取りアクセス権をもっている。

Sitecore のセキュリティ設定によってユーザーがこれらの基準を満たさない場合には、そのユーザーにはワークフロー コマンドは表示されません。

ユーザーがアイテムとワークフロー状態への書き込みアクセス権をもつ必要がある場合に、ワークフロー コマンドへの読み取りアクセスを不許可とするには 2 つの方法があります。

- ワークフロー コマンド アイテムへの継承アクセス権をオフにし、ユーザーおよびユーザーがメンバーであるすべてのロールに対してワークフロー コマンドへの読み取りアクセス権を付与しない。
- ユーザーまたはユーザーがメンバーであるロールの 1 つに対して、ワークフロー コマンド アイテムの読み取りアクセス権を不許可に設定する。

この 2 つの方法にはそれぞれメリットとデメリットがあります。

- 継承アクセス権をオフにした場合、必要なすべてのロールに対してワークボックスで表示されるワークフロー状態に明示的なアクセス許可を設定する必要があることとなります。少数のユーザーやロールがワークボックスでワークフロー状態を参照する場合には、これは望ましい方法です。
- Sitecore のセキュリティ システムにおいては不許可は常に許可を上書きします。ロールに対して読み取りアクセス権の明示的な不許可を設定した場合、多くのロールが割り当てられているユーザーに対して、意図せずにワークフロー参照の不許可を設定してしまう場合があります。読み取りアクセス権の不許可の設定は予期せぬ結果につながる場合があります。

継承アクセス権をオフとして、アクセスが必要なロールに対して明示的にアクセス権を設定することが、一般的には管理しやすく、推奨される方法です。

3.2 ワークフロー状態を特定のユーザーには非表示にする

ワークフロー状態の読み取りアクセス権をもつユーザーは、そのユーザーがコマンド実行アクセス権をもつワークフロー コマンドがその状態に含まれる場合に、ワークボックスでその状態を参照することができます。業務要件上、ある特定のワークフロー状態をあるユーザーに対して非表示にする必要がある場合は、その状態に対するアクセスを次の方法によって制限することができます:

- そのユーザーに対してその状態のすべてのワークフロー コマンドを非表示にする。
または
- そのユーザーに対してそのワークフロー状態自体を非表示にする。

ワークフロー状態を非表示にする手順:

- ワークフロー状態アイテムへの継承アクセス権をオフにし、ユーザーおよびユーザーがメンバーであるすべてのロールに対してワークフロー状態への読み取りアクセス権を付与しない。
または
- ユーザーまたはユーザーがメンバーであるロールの 1 つに対して、ワークフロー状態アイテムの読み取りアクセス権を不許可とする。

この 2 つの方法にはそれぞれメリットとデメリットがあります。

- 継承アクセス権をオフにした場合、必要なすべてのロールに対してワークボックスで表示されるワークフロー状態に明示的なアクセス許可を設定する必要があります。少数のユーザーやロールがワークボックスでワークフロー状態を参照する場合には、これは望ましい方法です。
- Sitecore のセキュリティ システムにおいては不許可は常に許可を上書きします。ロールに対して読み取りアクセス権の明示的な不許可を設定した場合、多くのロールが割り当てられているユーザーに対して、意図せずにワークフロー参照の不許可を設定してしまう場合があります。読み取りアクセス権の不許可の設定は予期せぬ結果につながる場合があります。

継承アクセス権をオフとして、アクセスが必要なロールに対して明示的にアクセス権を設定することが、一般的には管理しやすく、推奨される方法です。